

# Mr oonga と PGroonga

初心者向け情報

須藤功平

クリアコード

MySQLとPostgreSQLと日本語全文検索  
2016-06-09





# Mroonga ・ PGroonga

- Mroonga (むるんが)
  - MySQLに  
高速日本語全文検索機能を追加する  
プロダクト
- PGroonga (ぴーじーるんが)
  - PostgreSQLに  
高速日本語全文検索機能を追加する  
プロダクト



# 使いどころ

- Mroonga
  - 速さが欲しい
  - トランザクションはいらない
- PGroonga
  - 機能が欲しい
  - トランザクションも欲しい



# 速い？



## 速さ：検索1

キーワード：テレビアニメ

(ヒット数：約2万3千件)

InnoDB ngram	3m2s
InnoDB MeCab	6m20s
Mroonga:1	0.11s
pg_bigm	4s
PGroonga:2	0.29s

詳細は前回の資料を参照

<http://slide.rabbit-shocker.org/authors/kou/mysql-and-postgresql-and-japanese-full-text-search/>

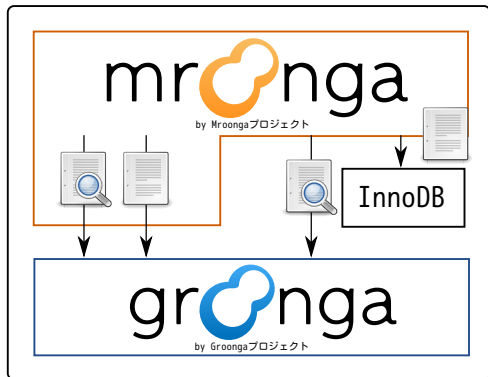


# Mrroongaのモード

- ストレージモード
  - ストレージとインデックスにGroongaを使う
- ラッパーモード
  - ストレージは既存ストレージエンジンをラップ
  - 全文検索・位置情報インデックスだけGroongaを使う



# Mroongaのモード



MySQL



データ



インデックス

ストレージ  
モード

ラッパー  
モード



# ストレージモード

- 全文検索が速い
- それ以外の条件も速い  
数値の比較とか
- 挿入も更新も削除も速い
- ソートも速い
- トランザクションはない



# ラッパーモード

- 全文検索が速い
- 全文検索以外はラップ対象のストレージエンジンに依存
- トランザクション
  - ストレージのみ
  - インデックスには効かない  
ロールバックしたらインデックスの再構築が必要





# 使い分け

- できればストレージモード
- ムリならラッパーモード

# ストレージモードの条件

- NULLがないこと
  - あるならテーブルをわけるかラッパーモード
- トランザクションを使わない
  - 例：追記のみ（ログとか）
  - 例：同時に更新されないようにする
  - 例：スレーブにする（後述）



# オススの使い方

- テーブル定義
  - デフォルトで使う (いい感じになる)
  - カスタマイズは慣れてからで十分
- 検索
  - IN BOOLEAN MODEを使う (いつもの検索)
  - \*D+プラグマを使う (デフォルトAND)



# テーブル定義

```
CREATE TABLE items (  
  title TEXT,  
  FULLTEXT INDEX (title)  
  -- ↑ COMMENTでカスタマイズしない  
) ENGINE=Mroonga  
  DEFAULT CHARSET=utf8mb4;
```



# 検索

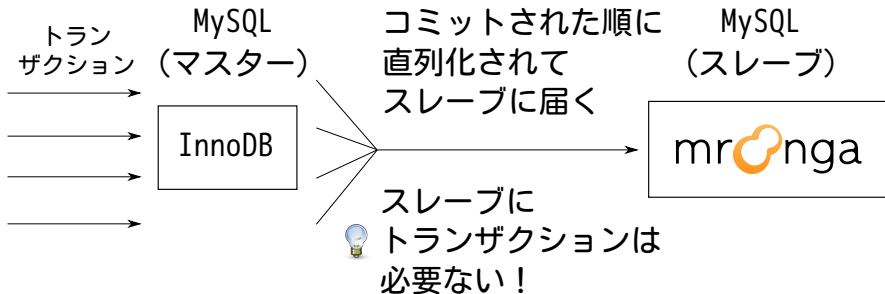
```
SELECT * FROM items
WHERE
  MATCH(title)
    -- ↓ *D+ プラグマ
  AGAINST('*D+ 激安 人気'
    IN BOOLEAN MODE);
    -- ↑ IN BOOLEAN MODE
```

# トランザクション欲しい！

- レプリケーションで対応可能
- 構成
  - マスター：InnoDB
  - スレーブ：Mroonga
  - MySQLはマスターとスレーブで違うストレージエンジンを使える！



# トランザクションとレプリケーション





# レプリケーション手順1

マスターmy.cnf:

```
[mysqld]  
log-bin=mysql-bin  
server-id=1
```

バイナリーログを有効にしてサーバーIDを指定





# レプリケーション手順2

スレーブmy.cnf:

```
[mysqld]  
server-id=2
```

サーバーIDを指定



# レプリケーション手順3

マスター:

```
CREATE USER 'repl'@'%' IDENTIFIED BY '1qazXSW@';  
GRANT REPLICATION SLAVE ON *.* TO 'repl'@'%';
```

レプリケーション用ユーザーを作成



# レプリケーション手順4

マスター:

```
SHOW MASTER STATUS\G
--                File: mysql-bin.000001
--                Position: 855
--                Binlog_Do_DB:
--                Binlog_Ignore_DB:
--                Executed_Gtid_Set:
```

バイナリーログの情報を確認



# レプリケーション手順5

スレーブ:

```
CHANGE MASTER TO
  MASTER_HOST='192.168.0.9',
  MASTER_LOG_FILE='mysql-bin.000001',
  MASTER_LOG_POS=855;
START SLAVE USER='repl'
  PASSWORD='1qazXSW@';
```

レプリケーション開始



# レプリケーション手順6

マスター:

```
CREATE TABLE items (  
  title text  
) DEFAULT CHARSET=utf8mb4;
```

マスターでテーブル作成



# レプリケーション手順7

スレーブ:

```
ALTER TABLE items  
ENGINE=Mroonga,  
ADD FULLTEXT INDEX (title);
```

スレーブだけMroongaに変更



# レプリケーション手順8

マスター:

```
INSERT INTO items  
VALUES ('データベース管理システム');
```

マスターでデータ登録



# レプリケーション手順9

スレーブ:

```
SELECT * FROM items
WHERE MATCH(title)
      AGAINST('*D+ データ 管理'
              IN BOOLEAN MODE);

-- +-----+
-- | title |
-- +-----+
-- | データベース管理システム |
-- +-----+
```

スレーブで全文検索





# まとめ

- できればストレージモード
- テーブル定義：デフォルトでOK
- 検索：IN BOOLEAN MODEと\*D+
- トランザクション：スレーブ



# PGroongaのいいところ

- 検索条件を柔軟に指定可能
  - MySQL：拡張はAGAINST()内で頑張る
  - PostgreSQL：演算子を追加可能
- トランザクション対応
  - ロールバックも効く



# オススメの使い方

- テーブル定義
  - 主キーを指定する
- インデックス定義
  - デフォルトで使う (いい感じになる)
- 検索
  - search\_path設定→@@演算子を使う



# テーブル定義

```
CREATE TABLE items (  
  id integer PRIMARY KEY,  
  title text  
);
```

スコアー取得時に必要なので主キーを指定



# インデックス定義

```
CREATE INDEX pgroonga_items_index
  ON items
  USING pgroonga (id, title);
```

主キーをインデックス対象にする



# search\_pathを設定

```
-- 現在のセッションのみ有効
SET search_path TO "$user", public, pgroonga, pg_catalog;
-- user1ユーザーのみ有効
ALTER ROLE user1
    SET search_path TO "$user", public, pgroonga, pg_catalog;
-- db1データベースでは永続的に有効
ALTER DATABASE db1
    SET search_path TO "$user", public, pgroonga, pg_catalog;
```

pg\_catalogの前にpgroongaを入れる

# なぜ設定する必要があるか

PostgreSQLに@@があるから

- 組み込みの@@より  
PGroongaの@@を優先したい
- 優先しないと  
インデックススキャンと  
シーケンシャルスキャンで  
結果が異なる



# @@演算子で検索

```
SELECT *,  
       pgroonga.score(items) AS score  
FROM items  
WHERE title @@ '激安 人気'  
ORDER BY score DESC;
```





# 独自演算子がうれしい例

## 入力補完

[https://github.com/pgroonga/pgroonga/tree/master/  
examples/completion](https://github.com/pgroonga/pgroonga/tree/master/examples/completion)



# テーブル作成

```
CREATE TABLE dictionary (  
  term text,  
  readings text[], -- 配列  
  english text  
);
```



# データ

```
INSERT INTO dictionary VALUES
('・',
 ARRAY['ナカグロ', 'ナカポチ'],
 '(n) middle dot ...'),
-- (...),
('踵',
 ARRAY['カカト', 'キビス', 'クビス'],
 '(n) (uk) heel ...');
```



# インデックス定義

```
CREATE INDEX pgroonga_index
ON dictionary
USING pgroonga (
  -- ↓前方一致・前方一致RK検索用
  term      pgroonga.text_term_search_ops_v2,
  -- ↓配列に対する前方一致・前方一致RK検索用
  readings  pgroonga.text_array_term_search_ops_v2);
```



# 検索：独自演算子+OR

```
SELECT term, readings, english
FROM dictionary
WHERE term &^ 'nak' OR
      -- ↑前方一致検索
      readings &^~> 'nak'
      -- ↑前方一致RK検索
ORDER BY term LIMIT 10;
```



# 結果例：nak

## 前方一致RK検索でヒット

term	readings	english
・	{ナカグロ, ナカポチ}	(n) middle dot ...
NaK	{ナック}	(n) NaK (sodiu...
なくとも良い	{ナクテモヨイ	(exp) (1) (uk) ...
...	...	...
(10 rows)		



# 結果例：なか

## 前方一致RK検索でヒット

term	readings	english
・	{ナカグロ,ナカポチ}	(n) middle dot ...
泣かされる	{ナカサレル}	(v1,vi) (1) to ...
泣かせる	{ナカセル}	(v1,vt) (1) to ...
...	...	...
(10 rows)		



# 結果例：中

## 前方一致RK検索でヒット

term	readings	english
中	{ウチ, ジュウ, チュウ}	(n,adj-no) (1) ...
中々	{ナカナカ}	(adv,adj-na) ..
中2	{チュウニ}	(n) second-year
...	...	...

(10 rows)





# レプリケーション

- PostgreSQL標準機能：×
  - プラグインはWALを使えない
- pglogical：○  
詳細：<http://www.clear-code.com/blog/2016/3/22.html>
- PostgreSQL 9.6：たぶん○
  - プラグインでもWALを使える
  - 正式リリースまでに対応したい



# まとめ

- トランザクション対応
- テーブル定義：主キーを指定
- インデックス定義：デフォルト
- 検索：`search_path`と`@@`
- レプリケーション：`pglogical`



# 相談場所

- メーリングリスト
  - groonga-dev
- チャット
  - <https://gitter.im/groonga/ja>
- Twitter : @groonga
- 勉強会



# 勉強会

## 「Groongaで学ぶ全文検索」

- 全文検索について学ぶ会
- 内容は参加者が知りたいこと
- ほぼ隔週金曜夜開催
  - 次回は6月17日  
<https://groonga.doorkeeper.jp/events/45556>